

## 目録所在情報サービス(NACISIS-CAT)のサービス時間 帯の変更

かねてから要望が強かった木曜日午後の目録システムの運用を、平成4年4月から実施する予定です。

これに伴い、従来木曜日午後に実施していた各種のデータ更新等の作業を土曜日に実施することになり、土曜日の目録システムの運用を停止することとします。

なお、当分の間、第4木曜日の午後に関り、システムエンハンス等の作業のために従来通り運用を停止します。

詳細は、以下のとおりですので、よろしく願いいたします。

### 1. 現行のサービス時間帯

月曜日～水曜日、金曜日	9:00～18:00
木曜日、土曜日	9:00～12:00

### 2. 変更後のサービス時間帯

月曜日～金曜日	9:00～18:00
土曜日	運用を行わない。

ただし、第4木曜日に関り、当分の間 9:00～12:00とします。午後は、システムのエンハンスのためのテスト等を実施します。

3. 平成4年4月1日からサービス開始予定のILLシステムのサービス時間帯についても目録システムと同様とします。

4. サービス時間帯の変更時期 平成4年4月1日からの予定です。

## ILLシステムのサービス開始

ILLシステムは4月1日から運用を開始いたします。

現在、ILLシステムが利用可能な担当者利用番号の確認調査を行っておりますが、運用開始以前に新規に申請があった利用番号の登録処理を行い、3月中旬には「教育システム」の利用が可能になる予定です。この「教育システム」では操作法の練習ができます。

一方、4月から運用する「業務システム」については、3月下旬には事前の接続テストができるようにする予定です。接続テスト期間中のレコードは3月末にはクリアしてしまいます。

## ILLシステムの改訂について

昨年11月に実施したILLシステムのモニターで、モニター参加館の方々の御協力により、センターシステムの動作確認のために有効なデータを採取することができました。ここに、関係機関の方々に改めてお礼申し上げます。

なお、モニターの際提出いただきました「システムチェック票」での要望事項のうち、センターで検討した結果、修正事項は以下の通りです。運用開始の4月までに修正を行う予定ですが、アスタリスクのついた事項は、7～9月頃に実施する予定のものです。

### 1) MDISPLAY画面での操作性について

- \* 1 SENDコマンド発行時にQNTが空白のレコードは残したまま他の有効レコードを「発送」の状態に進める。
- \* 2 MDIの画面で、MDOWNLDコマンドを発行できるようにする。これによってMDI画面で料金入力したレコードをまとめてローカルシステムにダウンロードできるようにする。
- 3 MDI入力画面にANO(受付番号)の項目を追加する。

### 2) コマンドについて

- 1 UNDOコマンドの名称を「CALLBACK」とする。
- \* 2 これに伴い、CATで使用している本来のUNDOコマンドを有効にする。
- 3 単にレコードを表示するだけで状態遷移を伴わないコマンド「OBSERVE」を新設する。
- 4 SEARCHコマンドを有効とする。
- \* 5 SUMMARYコマンドを1件の詳細表示の場合も有効とする。
- \* 6 ORDER直後の簡略表示から、業務選択画面を経ずに書誌検索に移行することができるように「SWITCH」コマンドを有効にする。
- 7 COPYコマンドを、CATと同様にオペランドで番号指定ができるようにし、簡略表示からのCOPYコマンドを有効にする。

3) 項目について

- 1 ONO(依頼番号)、ANO(受付番号)の長さを5バイトから10バイトにする。
- 2 ACCTのコードを「pb」、「pr」のように小文字正規化する。

4) 画面遷移について

- 1 1件の場合でも、必ず簡略表示を経るように変更する。

5) メニュー画面について

- 1 業務選択画面で表示される「状態」を次のとおり追加する。

	複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付
追加表示	到着処理中 回答待 クレーム未処理	新着照会 クレーム回答待	到着処理中 回答待 クレーム未処理 返送 更新請求	新着照会 クレーム回答待 返却クレーム未 処理

6) 簡略表示、詳細表示を見やすくする

- \* 1 簡略表示でのレコードの同定識別が容易になるよう表示を変更する。  
また、詳細表示でも料金  
に係る項目を見やすくする。

## 学術雑誌総合目録和文編確認調査の結果報告

学術雑誌総合目録和文編確認調査が平成3年7月22日から平成3年8月31日までを調査期間として行われました。センターでは各参加館から提出されたデータシートをもとに、書誌修正作業、書誌・所蔵追加作業、誌名変遷関係の確定、変遷マップの修正・追加等の作業を行いました。更に磁気テープで提出された所蔵データ(修正・追加・削除)と外注パンチに出していた所蔵の修正、追加、削除データをロードし、平成3年12月5日の時差更新後に冊子体編集用のデータを抽出しました。従って、オンラインで入力されたデータは、12月5日入力分まで冊子体に反映されることとなります。

現在、センターでは冊子体ゲラ刷の校正作業を行っています。冊子体は平成4年3月に7分冊で刊行される予定です。この調査にご協力いただいた各参加館にあらためてお礼申し上げます。

データの最終提出結果は以下のとおりです。

### 1) データ提出方法

書誌データ	オンライン入力	88	機関	(200	参加組織)
	データシート	537	機関	(718	参加組織)
所蔵データ	オンライン入力	87	機関	(179	参加組織)
	エラーリスト	534	機関	(709	参加組織)
	磁気テープ	4	機関	(30	参加組織)

### 2) オンライン入力状況

		91.7/19 ~ 8/15	91.8/16 ~ 9/12	91.9/13 ~ 10/9	91.10/10 ~ 11/7	91.11/8 ~ 12/5	合計
書誌	新規	102	282	160	330	190	1,064
	修正	1,413	1,460	8,724	2,755	5,407	19,759
所蔵	新規	7,616	9,396	2,487	32,311	8,360	60,170
	修正	18,706	49,458	33,843	61,406	14,877	178,290
	削除	2,746	2,713	211	14,437	2,282	22,389

※修正件数の合計は修正回数の延べ件数で、純レコード件数ではありません。  
 ※所蔵の件数には磁気テープからのデータロード分も含まれています。

### 3) 提出リストおよびデータシート数

機関の種類		エラーリスト	所蔵追加	書誌追加	書誌修正	変遷報告
大学	国立	135部	312枚	119枚	543枚	171枚
	公立	95	194	64	236	20
	私立	458	1,255	540	1,656	160

( 小 計 )	688	1,761	723	2,435	351
各省庁所轄 研究機関等	160	299	175	577	91
合 計	848	2,060	898	3,012	442

## 第2回総合目録委員会の審議事項

日 時: 平成3年12月18日(水) 14:00～16:00

場 所: 学術情報センター別館会議室

審議事項:

### 1. 目録所在情報サービスの利用規則の改正について

平成4年4月からスタートするILLシステムのサービス開始に伴う関連規則の改正について審議が行われた。この結果、目録所在情報サービスを利用できるものとして、従来からの大学、大学共同利用機関等に加え、短期大学、高等専門学校、図書館、図書室等を対象とし、学術雑誌総合目録参加館については、「その他、所長が適当と認める図書館、図書室」に該当するものとして、ILLに限って利用を認めるという改正案が了承された。この改正案は今後、運営協議委員会等の審議を経て、平成4年4月1日から施行される予定である。

### 2. ILLシステムのサービスについて

ILLシステムのこれまでの経過と今後の日程及び11月11日～22日に行われたモニターの結果について報告があり、平成4年4月からILLシステムのサービスを開始することが了承された。

## 第3回総合目録小委員会・第2回ILLシステム開発協力 者会議の審議事項

日 時: 平成3年10月28日(月) 13:00~17:00

場 所: 学術情報センター別館会議室

審議事項:

### 1. ILLシステム対応のローカルシステムについて

作業用帳票の出力例について、4大学の委員から事例紹介があり、併せてILLシステムへの要望等について検討した。これらの要望事項については、運用までの検討事項となった。主な事項は次の点であった。

- 1) ONO、ANOの長さについて  
これらの長さが足りないのではないかという指摘があった。
- 2) OADRSのデータ中のスペースについて  
スペースが入ると、ローカルシステムで改行するなど不都合があるとの指摘があった。
- 3) 著作権に係る記入項目について  
将来、必要になった時点で検討することになった。

### 2. ILLシステムモニター実施案について

次の事項について意見交換の後、各大学でモニターまでに間に合う範囲のローカルシステムで、前回の会議のモニター計画案に沿ってモニターを実施することが確認された。

- 1) 4月以降のILL用のユーザーIDの取り扱いについて  
教育用と業務用のIDをそれぞれ交付することはせず、目録システムと同様に、1つのIDで教育用、業務用の切替えを行うことになることを報告した。
- 2) モニター期間中に、処理が終了しない場合について  
最終日(22日)の午前(受付業務)、午後(依頼業務)にそれぞれキャンセルし、未終了リストは、センター側から送付するのではなく、各モニター館で出力し、センターへ送付することになった。
- 3) 目録システムと同じ名前のコマンドで異なる機能を有するものについて  
SCAN、UNDO等については、モニター後に変更等を含め検討することになった。



- 4) 今回のモニターの性格について  
今回のモニターでは、業務システムでは実際に料金の支払いに関する債権・債務が生じるが、そのことを周知徹底するために、マニュアルで明確に指示することになった。
- 5) 簡略画面でのLOCの表示について  
参加組織のデータのうち、LOCは簡略画面で表示されないのので、参加組織を一元化し分館等を配置コードで運用している機関では不便さがあるとの指摘があったが、モニターで実際に使っていただいてから、改めてご意見を伺うことになった。

## 第4回総合目録小委員会の審議事項

日 時: 平成4年2月14日(金) 14:00~17:30

場 所: 学術情報センター別館会議室

審議事項:

### 1. ILLシステムの開発について

#### 1) ILLシステムに係る経過と今後の日程

平成4年1月のILLシステム全国説明会の報告、2月のILLシステム講習会の予定等について報告があり、了承された。

#### 2) ILLシステムのモニター報告

平成3年11月に実施したモニターの結果を報告した。

#### 3) モニター後のシステム改訂について

4月の運用開始までに行う改訂事項と、運用後に行う改訂事項について説明し、承認を得た(内容については別項を参照されたい)。

### 2. 目録所在情報サービスのサービス時間帯の変更について

木曜日午後の運用と土曜日の停止等のサービス時間帯について説明し、承認を得た(内容については別項を参照されたい)。

### 3. 目録システムにおける利用者IDの表示について

継続審議になった。

### 4. 「目録情報の基準」の整備について

#### 1) 図書の懸案事項について

ア 「資料の特性に関する事項の入力レベル等」については、入力レベルを「2」とすることになった。

イ 「非刊行物の出版地、出版者の記述」については、PUBフィールドに書写年のみ記録する方向で、次回までにローカルシステムへの影響を評価した上で再検討することになった。

#### 2) 雑誌の懸案事項について

継続審議になった。

## 目録情報に関する質問書から(図書)

### 1 複数の出版物理単位からなる資料の出版者変更

複数の出版物理単位からなる資料で、巻次(年次)の途中から出版者が変わっている。この場合、出版者の変更前と変更後は、それぞれ別書誌レコードにするのか、あるいは同一書誌レコードにするのか。

集合書誌単位における出版者の変更と同様、出版者が途中から変わった場合、変更前と変更後は同一書誌レコードにします。

変更後の出版者は、NOTEフィールドに記録します。刊行途中で変更した出版者をPUBフィールドに記録することはできません。

(例) 出版者が「総理府統計局」から「総務庁統計局」に変更になったとき  
PUB: 東京 : 総理府統計局 ...  
NOTE: XX以降の出版者: 総務庁統計局 ...  
(XXには、巻次、部編名が入る)

(誤) PUB: 東京 : 総理府統計局 ...  
PUB: 東京 : 総務庁統計局 ...

PUBフィールドを繰り返して記録できるのは、記述の根拠とした資料(初巻、または入手できるもののうち最初の巻)の情報源に表示されている複数の出版者のみです。

### 2 別の出版者から刊行された同一内容の資料

情報源に表示されている出版者が既存書誌と異なっているが、他の書誌的事項は一致し、同一内容と思われる資料は、同一書誌レコードか、別書誌レコードか。  
(例) 政府刊行物の原局版と大蔵省印刷局版(和図書)  
イギリス版とアメリカ版(洋図書)

前項の「複数の出版物理単位からなる資料の出版者変更」に該当しない場合で、既存書誌に記録されている出版者と目録対象資料に表示されている出版者が一致しないときは、別の出版者から同一のものが刊行されていると考えられます。

別の出版者から刊行された資料は、他の書誌的事項が同一でも、原則として別書誌レコードとして下さい。

同一書誌レコードにして、PUBフィールドを繰り返し、それぞれの出版者を記録しているケースも見受けられますが、これは誤りです。

(例) 総務庁青少年対策本部刊(非売品)と大蔵省印刷局刊があるとき  
→ 総務庁青少年対策本部刊、大蔵省印刷局刊はそれぞれ別書誌

(誤) 総務庁青少年対策本部刊、大蔵省印刷局刊を1書誌とし、PUBフィールドに次のように記録  
PUB: 東京 : 総務庁青少年対策本部 ...  
PUB: 東京 : 大蔵省印刷局 ...

なお、参照レコード(LC)では、規定の情報源(標題紙)に表示されている出版者が合衆国以外のものであり、合衆国で同時刊行している出版者が規定の情報源以外の箇所に表示されていれば、合衆国の出版者も記録されています。

(LCRI 1.4D5参照)

### 3 書誌調整のルールについて

ニュースレターにこれまで掲載された修正のルールでは、レコードの作成館に連絡をとり、作成館がレコードを修正することになっている。  
しかし、作成館が資料現物を参照できないため修正を行えないケースもある。どうすべきか。

上記のような場合、修正を依頼した館が修正してもよいこととします。

ただし、レコード作成単位・記述の混乱を防ぐため、作成館に必ず確認した上で修正してください。

作成館に対し、疑義の表明、修正の依頼等を行うときは、

- 1 画面コピー
- 2 情報源のコピー

の2点を必ず添えて下さい。